

酒井教育長定例記者会見概要

日時：平成30年12月21日（金曜日）14：00～14：15

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

【教育長より】

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

昨日、スポーツ庁から「平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が公表されました。大阪府の結果については、担当課よりすでにご説明したとおりですが、ここ数年、徐々に多くの種目で記録が向上しており、この点は喜ばしいところですが、やはり全国と比較すると低位な状況となっています。

今後、各学校において、体力向上実践事例集等も活用しながら、調査結果から明らかになった自校の課題解決に向けて主体的に取り組んでいただきたいと思います。府教育庁としましても、引き続き、子どもたちの体力向上に向け、市町村教育委員会と連携し、取組みを進めてまいります。

「平成30年度大阪府教育センター研究フォーラム」の開催について

12月26日（水曜日）に、大阪府教育センター及び隣接する教育センター附属高等学校において、「平成30年度大阪府教育センター研究フォーラム」を開催します。

昨年度に引き続き、「支える 育てる つなげる」をテーマに、学校で日々奮闘している教職員を「支え 育て つなげる」ために、「授業づくり」や「不登校支援」、「幼児教育」、「支援教育」など、いずれも喫緊の課題について、専門家による講演や実践発表を行います。

当日は、約1,300人の教職員をはじめとする教育関係者が集い、各校園における日頃の取組みの成果発表や、様々な教育課題の解決に向けた研究協議を行います。また、「ランチタイムコンサート」では、府立大阪南視覚支援学校高等部と泉佐野市立新池中学校の生徒による演奏が行われます。こうした活動を多くの方に知っていただけるよう、記者の皆様にはご協力をお願いします。

今年を振り返って

本日は年内最後の会見です。早いもので、年末のご挨拶をさせていただく時期となりました。振り返りますと、今年、6月18日の大阪北部地震、9月4日の台風21号と、度重なる大きな自然災害に見舞われた年でした。多くの学校が被害を受け、とりわけ、高槻市で小学生が通学途上において倒壊した学校のブロック塀の犠牲となってお亡くなりになったことは極めて痛ましく重大なことでありました。

また、この夏は非常に暑さが厳しく、運動部活動をはじめとする学校の管理下における熱中症事故が全国的に話題に上りました。熱中症対策については、府教育庁において

も、引き続き今後に向けて、学校現場や市町村教育委員会とよく協議しながら、対策を進めていく必要があると考えています。

一方で、大阪桐蔭高校の史上初2度目の甲子園春夏連覇や、府立河南高校の全国高校軟式野球大会準優勝、府立大阪南視覚支援学校生の全国盲学校弁論大会全国大会優勝など、大阪の子どもたちの活躍が光った一年でありました。また、府立中央聴覚支援学校の、特別支援学校として全国初となるセーフティプロモーションスクール（安全に関する持続的な活動を行う仕組みが整っている学校）認証や、内閣総理大臣表彰を受けた茨木西高校の地域等と連携した交通安全の取り組みなど、学校としての取り組みも評価された一年でもありました。

加えて、11月には、2025年万博の大阪・関西での開催が決定しましたが、府立登美丘高校ダンス部の生徒たちによる「万博ダンス」や、府立桜塚高校軽音楽部の万博誘致応援ソングの発信など、子どもたちが得意技を生かし、積極的に誘致活動にご協力いただいたことは非常に嬉しく、感謝を申し上げます。「いのち輝く未来社会のデザイン」という「SDGs」にも通じるテーマですので、皆が一丸となって、未来社会の担い手である子どもたちの心に響く万博にしていく必要があるのではないかと考えています。

また、来年度当初予算編成作業が進んでいますが、政策面の重点課題としては、教育と福祉の連携という観点から、スクールソーシャルワーカーの配置や医療的ケアが必要な子どもの通学支援、家庭教育力向上といったテーマに取り組んでいきたいと思っておりますし、私立学校耐震化や府立学校体育館へのエアコン設置など学校の安全対策・熱中症対策を進めなければならないと考えています。

子どもたち等の活動の様子や教育行政の取り組みを広く府民の皆様にお伝えすることができたのも、記者の皆様のご協力があったことであり、感謝申し上げます。来年も引き続き、大阪の教育力のさらなる向上に全力で取り組んでいきたいと思っております。私からは以上です。

【質疑応答】

（記者） 昨日、南海トラフ地震の対応強化策がまとまりました。その中でも、児童、生徒が学校にいる時間に地震が発生し、学校に留まらなければならない場合の計画策定や、備蓄についての話が盛り込まれていますが、それらを来年度の当初予算に反映する予定などはあるのでしょうか。

<教育長> 対応の強化について、府立学校に対しては指示事項、市町村教育委員会に対しては指導助言事項というものがあつて、その中で、ご質問の状況での対策を、学校がきちんとマネジメント機能を発揮し、子供たちの安全を守るという事を原点にして行っていたらということ、常日頃申し上げてい

ます。

<教育次長> 備蓄については、従前より企業のご協賛をいただき、支援学校に関連の物品を備蓄するといったことを進めています。来年度当初予算において、新たなものは予定していませんが、拡充を検討しています。

(記者) 計画策定は早ければ早いほうがいいと思いますが、策定期間のめどはありますか。

<教育長> 学校としての計画と言いますか、一定の対応というのは常日頃の備えがありますので、毎年の作業として、点検、改善していただくこととなります。

(記者) 南海トラフへの対応策には追加事項があり、年明けに公表されるということですが、議論の中で、防災の主役は市町村だという話もありました。今後、府教育委員会と市町村教育委員会との連携も、どんどん強化していくのですか。

<教育長> 当然強化していきます。